※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００７

令和５年度　工業科（ファッション工学科）

教科	工業	科目	ﾌｧｯｼｮﾝ工学製図	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	自主教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

形態の原理や色彩理論のうえに立ち、繊維製品全般を造形性と審美性の立場から見つめることができるようになりましょう。

織と編の製造技術ならびに染色や仕上げなどの加工技術とデザインとの密接な関係をテキスタイル・アパレル・その他の分野など、多くの具体例をもとに展開します。

2　学習の到達目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、繊維製品のデザインに必要な資質・能力を育成します。

(1) 染と織についてデザインの技法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 製造技術や染織加工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。

(3) 染と織のデザイン性を備えた繊維製品を創作する力の向上を目指して自ら学び、繊維産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	染と織についてデザインの技法を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	製造技術や染織加工に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	染と織のデザイン性を備えた繊維製品を創作する力の向上を目指して自ら学び、繊維産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	パターン	・身頃の原型を理解し、サイズ変更・展開を行う。 ・袖の原型を理解し、デザイン変更をする ・衿の形状をデザインし、型紙を完成する。 ・シーチングで組み立てし、補正する	a:パターン原型について理解できる。 b:パターンの展開によりデザイン変更を考察することができる。 c：目的に応じたデザインをパターン展開により主体的に制作することができる。	パターン展開	学習状況の観察 レポート	提出物
2学期	染と織のデザイン	・テキスタイルデザイン ・デザインのための色彩	a:テキスタイルデザインについて理解できる。 b:テキスタイルデザインに適した色彩構成を考察することができる。 c：様々なテキスタイルデザインを用いて、主体的にデザインに活かすことができる。	デザイン画	学習状況の観察 レポート	提出物
3学期	染と織のデザイン	テキスタイルパターン	a:テキスタイルパターンについて理解できる。 b:テキスタイルパターンに適した色彩構成を考察することができる。 c：テキスタイルパターンを主体的に描くことができる。	デザイン画	学習状況の観察 レポート	提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度